

【第12偵察戦闘大隊（仮称）新編の概要等】

- 我が国を取り巻く安全保障環境の変化により、機動運用部隊の機動・展開能力強化の重要性が増加
- 各種事態に即応し、実効的かつ機動的に抑止及び対処し得るよう、第12旅団について、高い機動力や警戒監視能力を備え、機動運用を基本とする機動旅団に新編
- 相馬原駐屯地においては、第12偵察隊の廃止及び第12偵察戦闘大隊（仮称）の新編等を行う予定

第12偵察隊は、群馬県相馬原駐屯地に所在し、旅団の行動に必要な情報を偵察用オートバイ、偵察警戒車等の車両及び各種偵察用機材を使用して、情報収集任務に当たる部隊で、過去には、三宅島火山の噴火や新潟県中越沖地震、東日本大震災、熊本地震、房総半島台風被害等における災害派遣において、機動力を發揮しての被災状況の情報収集等を実施してきました。

第12偵察戦闘大隊（仮称）は、第12偵察隊を基幹として令和4年度末に新編します。

大隊は、第12旅団隷下の機甲科部隊として、広範な地域において、各種事態に機動的に対処し得る態勢を強化するため、警戒・監視能力、機動力、火力が強化された部隊であり、偵察警戒車、偵察用オートバイなどの車両や各種監視器材等を装備する従来の機能を保持する偵察中隊に加え、機動戦闘車、軽装甲機動車等を装備する戦闘中隊及び本部管理中隊で編成されています。

これまでの第12偵察隊の伝統を継承し、各種事態に備え、速やかに即応する部隊として任務に邁進します。

【第12偵察戦闘大隊（仮称）の装備品の一例】



87式偵察警戒車



軽装甲機動車



偵察用オートバイ



16式機動戦闘車

【相馬原演習場における主な訓練概要】

- 相馬原演習場における訓練は、各種装備品を使用した偵察行動を主に練成
- また、16式機動戦闘車を用いた訓練は、演習場内の飛行場の西側を射撃位置として北西側の弾着地方向に基本的な射撃訓練を予定（射撃訓練の実施は、年間約15日程度を想定）
- 射撃訓練は、現在演習場で行っている爆破訓練より少し大きい発射音が発生します。

※射撃訓練や射撃音は、他の部隊訓練の状況や天候等により変動します。